

三重県医学部貢献賞（医学教育・社会貢献部門）

ワキモト 隆子（54歳） 三重大学医学部附属病院医事課（医療通訳）

○受賞の感想と今後の抱負

この度は三重県医学部貢献賞に採択いただき、大変光栄に思っております。そして医療通訳・外国人医療に注目頂けた事を大変うれしく思っております。日頃、医療通訳が活動しやすい環境を整え、指導してくださっている全ての方々に感謝申し上げます。

近年多文化社会が急速する中で、医療通訳士に必要性は十分に認識されていますが、医療機関に駐在する医療通訳は、まだまだ少なくシステムも確立してはおりません。大学病院で日々医療通訳者として勤務し、自身のスキル・人間性を磨くことで、医療通訳の仕事と医療通訳が通訳介入するメリットを社会に発信していきたいと思っております。

○受賞テーマ

三重県における専任の医療通訳の先駆けであり、三重県のみならず全国の医療機関で医療通訳の重要性が認識されその推進モデルとなったこと、全国の病院における医療通訳の雇用の先駆けとなるなど多大なる社会貢献

医学・看護教育、医療人育成、社会貢献の分野に於いて成し遂げた顕著な業績

国立病院大学として初めて医療通訳として常勤雇用され、医療通訳として日々の業務に関わる事で医療通訳として必要なスキルと、医療スタッフと協働する上で必要なスキルを獲得する事が出来、新しく雇用される医療通訳に基本的なスキルとアドバイスを伝える事ができた。

と同時に、医療スタッフへも医療通訳を上手に活用法する方法を伝えている。

○業績の概要と将来展望

これまで医療通訳が居なかった事で、外国人患者は自身で分かる範囲で医療者の話す内容を理解するか、自身で通訳してくれる友人・会社の通訳・日本語の出来る子供達に頼るしかない状況にあった。日本語が出来るという理由から医療通訳を担うのには大きなリスクと問題が出てくる。言葉・文化・習慣の違いのある外国で医療行為を受ける事は、患者にとっては不安の大きい行為であり、余程症状が強くなると受診にならないケースも多い。医療通訳が病院に駐在している事は、患者に大きな安心感を与える事が出来る。

医療通訳が介入する事で、患者の症状・訴え・家族背景などを正確に知る事が出来るので、医療スタッフとのスムーズなコミュニケーションが可能となり、スタッフの負担軽減にもつながっている。駐在の医療通訳者は、病院のシステムを理解しているので患者の多様な質問に対しても、的確な部署に繋げることが出来、支払い相談に関しては、患者からの支払

い可能状況を確認し、病院側との条件をすり合わせ未払いを防ぐ事が出来ている。

医療通訳が担う仕事は、外国人患者の受診・検査・インフォームド・コンセントでの訳出が主な業務ではあるが、それ以外で介入が必要となる事も多い。例えば、手術時の麻酔導入時の通訳介入であるとか、治療に伴い受けられる助成についての説明をソーシャルワーカーから受ける際の通訳介入などである。この様な細かいフォローによって外国人患者は、安心して治療を受ける事が可能となっている。こうした日々関わる患者と、医療スタッフと協働する事で、医療通訳の能力は、磨かれ向上していると痛感している。

毎年、三重県国際交流財団では医療通訳研修が開催され多くの参加者が医療通訳の基礎を学んでいるが、医療通訳者が活躍できる病院などはまだまだ少なく本当に必要になった際には人材がない状況にならない為に、医療通訳の仕事内容・医療通訳が介入する事のメリットを社会に発信し、医療機関などでの外国人患者を受け容れる環境整備を確立していくことが必要である。

2009年に入職した年の通訳件数は、798件で、2019年（2018年よりスペイン語通訳の2人体制）には2915件であった。年々件数は増加していく傾向にあり、簡単な案内・問診などは、通訳機器で対応し、より詳しく・正確な情報が必要となる場面で医療通訳者の介入をするなどの通訳整備に対しても充実していく事に尽力していきたい。

○関連分野における本業の特筆すべき点

医療通訳が介入する事で、患者の症状・生活環境・思いを正確に医療スタッフが迅速に知る事が出来、正確な診断と迅速な治療につなげる事が出来ている。患者側からは、自身が困っている事・不安に思っている事を医療者に質問でき、自身の状況に関して理解できる事は安心につながり、積極的に治療に向かう事の架け橋となった。このような相互理解を得ることで、医療事故や医療不信によるトラブルなどを未然に防ぐことができ、リスクマネジメントの観点からも病院機能として重要な役割を果たしている。

医療通訳が介入する事のメリットを発信する事により、他医療機関での医療通訳者の雇用のきっかけとなった。

○本業績における実績

Vol.76 No.6 小児科診療 「医療通訳士からみた外国人診療のありかた」

Vol.82 No.3 小児科診療 「医療通訳者がいる病院における外国人小児への対応」

○略歴

1988年3月 名古屋芸術大学音楽学部 器楽科卒業

1988年4月 新光商事株式会社 営業事務

1982年10月 株式会社もしもしホットライン コールセンター業務

2009年7月 三重大学医学部附属病院 ポルトガル語医療通訳者

○専門分野

医療通訳

○医学博士、専門医資格など

中学校教員第1種免許

国際臨床医学会 認定医療通訳士